

令和3年 決算特別委員会(部審査) 開催状況

開催年月日 令和3年11月11日

質問者 民主・道民連合 広田 まゆみ 委員

担当部課 総合政策部地域創生局地域政策課

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>一 自転車活用等促進事業について</p> <p>(一) 令和2年度までの成果と課題について 自転車活用等促進事業について伺います。コロナ禍の影響もあるなかで、もっと自転車キャンペーンなどSNSなどを活用した先進的な取組にチャレンジをされていると承知をしています。令和2年度までの実績と、活用促進をさらに進めるための課題はどこにあり、どのように対応されようとしているのか伺います。</p> <p>(二) サイクリングルートなど受入環境整備のあり方について 実際に海外のお客様から聞きました。ヨーロッパなどのサイクリングツーリズムでは、砂利道などの場合もあって、よくパンクをするそうです。国道はトラックを含む自動車の通行も多いわけですが、農道が整備されていて、公共サイン、ルートマップガイドなどがあれば、まさに自転車天国だそうです。既存の資源を活用した公共サインの設置や、例えば知事公約ともなっているデジタルミュージアムなど、地域の文化と触れ合える拠点との連携などモデルルートの開発について、現在までの検討状況などはどのようになっているのか伺います。また、マップを拝見すると世界縄文遺産や、知床世界遺産の周辺が空白地になっているように見えますが、どのように連携していく考えかあわせて伺います。</p>	<p>【工藤地域創生局長】 自転車活用等促進事業についてであります。道では、条例が施行された平成30年度以降、自転車活用等促進事業を実施し、サイクルイベントの開催や、SNSなどを活用した様々な広報を通じ、道民の皆様に、自転車が持つメリットや効果について、広くPRを行うとともに、ヘルメットの着用など、自転車の安全利用について、積極的な普及啓発に取り組み、道が開設をしたインスタグラム投稿が、約4,700を超えるとともに、フォロワーも1,600を超えるなど、自転車活用の輪は着実に広がりをを見せているところでございます。</p> <p>こうした中、コロナ禍において、サイクルイベントが中止になるなどの影響があった一方で、人々の意識やライフスタイルの変容から、エコでクリーンな乗り物として、改めて自転車が注目をされるなど、今後、一層の利用拡大も見込まれますことから、道といたしましては、事故防止に向けた利用ルールのさらなる徹底を図ることはもとより、この好機を逃さずに、新たに自転車に興味を持たれた方々に、環境や健康面での具体的なメリットを実感していただき、実際の自転車利用へと結びつけていくことができるよう関係機関の皆様と連携を図りながら、楽しく安全な自転車の活用に向けた取組を進めてまいりたいと考えております。</p> <p>【三角移住交流担当課長】 サイクリストの受入環境整備についてでございます。道では、本年3月に策定いたしました「第2期北海道自転車利活用推進計画」におきまして、「北海道の特性を生かしたサイクルツーリズムの推進」を掲げ、休憩施設の充実やルート案内板の設置など、市町村や関係機関との連携のもと、快適なサイクリングを楽しめる環境づくりに取り組んでいるところでございます。</p> <p>また、令和元年8月に官民協働のもと設置いたしました「北海道サイクルルート連携協議会」におきまして、本年6月に国のナショナルサイクルルートの指定を受けました「トカプチ400」を含む、8つのサイクルルートモデルルートとして位置づけ、ウェブやサイクルマップなどを通じ、ルートの距離や標高はもとより、グルメスポットや景観スポットといった様々な情報を提供するとともに、自転車の出張修理などの取組を通じ、地域でのホスピタリティの向上を図っているところでございます。</p> <p>道といたしましては、引き続き、自転車の利活用に向けて取り組む市町村や関係機関と連携を密にしながら、縄文遺跡群をはじめ、本道の雄大な自然や歴史・文化といった様々な魅力を活かしたサイクルルートの検討や、受入環境づくりに取り組んでまいりたいと考えております。</p>